

# 6 下水道・河川

～公共下水道の整備や良好な水辺環境の実現が図られているまち

## <A 基本計画の目標>

公共下水道（雨水）、河川並びに雨水貯留施設整備をさらに推進し、浸水被害の解消をめざします。  
下水道の普及をさらに促進させるとともに、市街化調整区域内の生活排水処理をすることにより、生活環境の向上を図ります。

施設の改築・更新等を推進し、鎌倉処理区の再構築をめざします。

水環境の向上に努め、親水性を高めます。

下水道資源(水・熱・汚泥等)の有効利用を図ります。

## <B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	トレンド
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	63.3 %	65.7 %	68.8 %	68.2 %	70.5 %	↗

## <C 目標達成に向けた22年度の実績と自己評価>

自己評価

### 【都市整備部】

<p>※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)</p> <p>市街化調整区域の整備に着手するとともに、分担金条例を制定しました。 既設污水管路施設の修繕を平成25年度までの修繕計画延長の約60%(鎌倉処理区)、約70%(大船処理区)を実施しました。 国道134号、主要地方道横浜鎌倉線内の污水施設の耐震化工事を実施しました。</p>	○
<p>※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)</p> <p>公共下水道(雨水)の整備を約1km実施し整備率は約77%になりました。 準用河川新川の根固工を約30m施工しました。 準用河川の洪水対策として小袋谷川・砂押川・神戸川の浚渫を行いました。 雨水幹線の劣化診断調査結果に基づき、大塚川雨水幹線と稲瀬川第1雨水幹線の目地補修工を施工しました。 二又川雨水幹線・台川雨水幹線等の流れを阻害する堆積土砂の浚渫を行いました。 準用河川や雨水排水施設について、パトロールや要望等で発見された突発的な維持修繕を行いました。 滑川について、樹木の伐採・剪定・河川施設補修・浚渫等の機能管理を行いました。 市内各所の河川に設置されたフラップゲートの点検を行いました。</p>	◎
<p>※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)</p> <p>七里ガ浜浄化センターの改築工事については、平成21・22年度工事でB系水処理(初沈・終沈)工事が完了し、併せて平成22・23年度工事で主ポンプ設備・受変電設備工事に着手しました。 污水中継ポンプ場の改築工事について、七里ガ浜ポンプ場の工事が完了しました。また、西部ポンプ場及び中部ポンプ場の改築工事に着手しました。 汚泥・焼却灰について、100%有効利用を実施しました。</p>	◎

前年度当初目標に対し、◎=80%以上○=50%以上△=30%以上×=30%未満

## <D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

### 【都市整備部】

<p>・ホタルの棲息がみられる事例など具体的な水質改善事例をあげるとさらに分かりやすい。さらに潤いと安らぎのある水辺空間の創出に向けて住民との協働によって進めていくことが求められる。</p>
<p>・ゲリラ豪雨が多発しているため、突発的な水害の予防、発生時の対応の仕組みを検討したい。</p>



<p>河川等のよりよい親水環境の整備については、自然との共生が図れるよう、生態系への配慮や流水機能の確保も考慮しながら、地元住民や環境団体等と十分に調整を図り進めていきます。</p>
<p>平成20年度に「鎌倉市下水道総合浸水対策基本計画」を策定し、その中で浸水対策についての基本的な対応策を整理しており、これに基づき進めていきます。</p>

## <E 22年度未達成事業の課題・問題点など>

### 【都市整備部】

<p>国庫補助金の減額配分により、財源確保が難しくなり、市街化調整区域内の下水道管渠の整備に遅れが生じています。          汚水管渠等の経年劣化による老朽化が進行することから、現計画以外の修繕も必要となります。          大地震等に備えて、早期に下水道施設の耐震化を図る必要があります。          雨水排水施設の耐震化については、社会資本整備総合交付金を活用した事業を実施するため、社会資本総合整備計画に盛り込み国に提出したが、雨水排水施設の耐震化は補助対象外との回答がありました。今後も引き続き財源確保に向け関係機関との協議が必要です。</p>
<p>※未達成の理由&lt;支障となった理由&gt;</p>

## <F 今後の展開(取組方針)>

### 【都市整備部】

<p>補助金等の財源確保に努めるとともに、事業効果が得られるところから、市街化調整区域内の下水道管渠の整備を進めます。          引き続き既設下水道管路施設の修繕を進めていきます。          引き続き既設下水道管路施設の耐震化を進めていきます。</p> <p>事業実施については、後期実施計画事業として位置づけ計画的な対応を図ります。          公共下水道(雨水)や河川等の整備をより推進するため、国庫補助等の財源確保を視野に入れて、浸水被害の解消を図ります。          河川等の親水環境の整備について、地元住民や環境団体等との調整を図り具体的な整備方針を決定し、早期の事業着手を目指します。          雨水排水施設の耐震化については、耐震化事業計画を作成し財源確保に向け関係機関との協議を行い、早期の事業着手を目指します。</p> <p>七里ガ浜浄化センター及び汚水中継ポンプ場の改築更新工事を計画的に進めます。          汚泥・焼却灰について、引き続き有効利用を行うとともに今後も安定した有効利用先の確保のため調査検討を進めます。</p>
---

## <G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	H22年度 目標値	H27年度 目標値
公共下水道の普及率(+)	総人口に占める公共下水道の供用開始区域内人口の割合	95 %	96.3 %	96.4 %	96.5 %	<b>96.6</b> %	98 %	100 %
水辺環境の改善率(+)	川の水がきれいになったと感じる市民の割合	57.6 %	60.5 %	64.3 %	63.9 %	<b>65.7</b> %	65 %	69 %

## <H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	3,155,949千円	3,252,040千円	3,672,861千円					
	(国・県)	681,270千円	749,569千円	1,047,085千円					
	(負担金等)	468,671千円	215,155千円	1,115,100千円					
	(一般財源)	2,006,008千円	2,287,316千円	1,510,676千円					
	人員配置数	57.7人	89.7人	86.4人					
	人件費 (B)	516,335千円	787,614千円	738,614千円					
	総事業費(A+B)	3,672,284千円	4,039,654千円	4,411,475千円					
	対前年比		110.0%	109.2%					

## 鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



### 評価できるところ

- ・より良い親水環境作りはここ数年、多くの努力がはらわれ、市民からの評価も上昇したのは、市民がこの事業の効果を実感したためと考えられ、これまでの地道な施策進行が功を奏したと評価できる。
- ・水辺環境の改善率は平成22年度目標値65%を達成した。太陽と緑に恵まれた鎌倉は、水辺の環境が改善されれば、自然環境の3大要素を備えることになり、素晴らしい都市になる。
- ・大地震等に備えて、下水道施設の早期耐震化の必要性が認識されており評価する。なお、事業の進捗を注視したい。



### 課題・提言

- ・下水道施設の耐震化を進めるとのことだが、財源確保を考えると、どの程度の震度を想定するのがよいか再検討が必要ではないか。また、その想定を超える地震が起きたときの対応についても検討しておく必要がある。
- ・ここ数年は大規模冠水が発生していないが、ゲリラ豪雨が発生しやすくなっているため雨水対策を進めてほしい。